



古墳時代
中期

500年

生目西都原新田原

日向における古墳時代の首長墓系譜を読む

いきめ

古墳時代
前期

400年

さいとばる

にゅうたばる

古墳時代
後期

600年

開催
期間

平成27年 7.18 土 SAT ▶ 9.13 日 SUN

関連講演会

「日向における首長墓の動向とその背景」

日時：平成27年8月1日(土) 午後1時～午後4時
場所：西都原考古博物館 1Fホール
講師：岸本 直文氏(大阪市立大学) 石村 友規氏(宮崎市教育委員会)
榎渡 将太郎氏(新富町教育委員会) 東 憲章氏(宮崎県立西都原考古博物館)

関連講座

「墓制からみる南九州の古墳時代」

日時：平成27年8月29日(土) 午後1時30分～午後3時
場所：西都原考古博物館 1Fホール
講師：橋本 達也氏(鹿児島大学)

平成27年度 西都原考古博物館特別展

生目・西都原・新田原 ～日向における古墳時代の首長墓系譜を読む～

日本の古墳時代は、列島の各地で特定の人物のために巨大な墳墓が造営されたという点において、東アジア世界の中でも特異な時代であったと位置づけられています。さらに九州では、広い地域を束ねた首長の墳墓と目される墳長120m以上の前方後円墳のほとんどが日向に集中しており、古代国家形成の過程で日向の首長が重要な役割を担っていたと考えられます。

展示会では、古代日向の主要な古墳群であり、4世紀・5世紀・6世紀を代表する生目古墳群(宮崎市)、西都原古墳群(西都市)、新田原古墳群(新富町)に焦点をあて、南九州の古墳群にみえる特質や首長墓の変遷とその意味について紹介します。



いきめ

生目古墳群

異形埴輪／生目古墳群出土
(写真提供：宮崎市教育委員会)

1号墳・3号墳・22号墳と100mを超える大型の前方後円墳が連続して造られ、古墳時代前期の南九州において他を圧倒する存在です。特に3号墳は全長137mと前期では九州最大の前方後円墳です。また、43号地下式横穴墓は地下式横穴墓の出現期に近い5世紀前葉の築造と推定されており、地下式横穴墓の起源や伝播について再検討を促すものです。

さいとばる

西都原古墳群

重要文化財 埴輪子持家／西都原古墳群出土
(原品：東京国立博物館)写真はレプリカ

九州最大の前方後円墳である女狭穂塚や、列島最大の帆立貝形古墳である男狭穂塚をはじめ、300基以上の古墳を擁する日本国内でも著名な古墳群です。女狭穂塚は墳形や埴輪の特徴などから畿内王権との密接な関係が想定されています。短甲3領をはじめとする豊富な副葬品を備えた4号地下式横穴墓の発見は、従来の地下式横穴墓のイメージを大きく覆すものでした。



にゅうたばる

新田原古墳群

女性埴輪／新田原古墳群出土
(写真提供：新富町教育委員会)

新田原台地一帯に展開する4つの古墳群の総称です。そのうちの祇園原古墳群に含まれる百足塚古墳では、いち早く横穴式石室を採用していることが明らかとなりました。また、多数出土した形象埴輪は、宮崎県内で初めて具体像が判明した埴輪群として注目されています。

これらの埴輪群は大阪府今城塚古墳のものと類似しており、大王墳の埴輪祭祀が九州に及んでいる事例として重要です。



平成27年度 展示会年間情報

企画展Ⅰ

文字が伝えたもの

～宮崎県出土考古資料にみる文字と心～
2015(平成27)年
4月25日(土)～6月21日(日)



壺書土器群／宮崎市余り田遺跡出土
(宮崎県埋蔵文化財センター所蔵)

国際交流展

美と技と祈り

～台湾原住民の植物利用と南九州人の軽石利用～
2015(平成27)年
10月3日(土)～11月29日(日)



自然素材を利用する台湾原住民
(写真提供：台湾 新北市十三行博物館)

企画展Ⅱ

それは何を運んだのか

～古墳時代のフネ・舟・船～
2016(平成28)年
1月16日(土)～3月21日(月)



重要文化財 埴輪船／西都原古墳群出土
(原品：東京国立博物館)写真はレプリカ